

愛知県立港特別支援学校（肢体不自由）

1 学校概要

設置部・設置学科	小学部・中学部・高等部（普通科・商業科）
特色ある取組	
<p>【在宅就労の推進】 「港モデル」として本校が中心となり、他校の参加も募ってオンラインによる在宅ワーク体験実習を実施するなど、重度の身体障害のある生徒の在宅就労を進めています。</p> <p>【商業科での実践的な活動】 愛知県の特別支援学校で商業科があるのは本校だけです。校内でのクラウドファンディングを使っての商品開発、NPO 法人等と連携して宣伝ポスター作りや商品の販売など、商業活動に必要な実践的な力を身に付けることができるようにしています。また、大学が主催している POP コンテストに応募したり、ビジネス文書実務検定、ビジネスコミュニケーション検定、情報処理検定、簿記検定等にも挑戦したりしています。</p> <p>【校外での体験的活動の充実】 交通の便がよく、近隣にさまざまな施設がある都市部に設置されているため、美術館や水族館等の見学、スケート体験、ホテルレストランでの食事マナーの学習、大型商業施設での買い物体験、地下鉄の体験など、校外での体験的活動を多く取り入れています。</p> <p>【体育的活動の推進】 名古屋市の障害者スポーツ大会やボッチャの大会への参加を推奨し、事前練習を放課後等を実施しています。また、OB である東京大会パラリンピックメダリスト（ボッチャ競技）と交流を図り、スポーツへの興味・関心を高めています。</p>	
地域とのつながり・地域での役割	
<p>【交流及び共同学習の実施】 小学部は名古屋市立港楽小学校と、中学部は名古屋市立港明中学校と、高等部は県立熱田高等学校、県立中川商業高等学校の2校と交流しています。運動会や文化祭などの行事の見学や参加をお互いに行ったりもしています。</p> <p>【地域との連携】 町内の掲示板に運動会や文化祭のポスターを貼り、町内の方が見学に来てくれます。また、毎年町内の方が、文化祭の時期になると来客用玄関に生け花を飾ってくださっています。文化祭では、地域の多くの事業所から作品を出品していただいています。</p> <p>【緊急時における地域施設との連携】 津波発生時の避難では、株式会社 UACJ と防災協定を結び、校舎隣りにある UACJ 社員寮の屋上へ避難できるようにしています。避難訓練の際は、社員寮の方々が備蓄品等を運ぶ手伝いを行ってくれています。また、中部ろうさい病院には、事故発生時等の緊急時の受診をお願いしており、医療的ケアを必要とする児童生徒の津波発生時の避難先としても協力をいただいています。</p>	
高等部卒業生の主な進路	
<p>【進学】 日本福祉大学、愛知障害者職業能力開発校など 【一般就労】 クォールアシスト（株）、トヨタグループス（株）、（株）デンソーブラッサムなど 【福祉的就労】 ふれあい名古屋、名古屋ライトハウス、名古屋市身体障害者福祉連合会、AJU 自立の家など</p>	
一言アピール	
<p>一人一人に寄り添い、意欲と主体性を大切にする、あたたかい学校です。</p>	

2 スクール・ポリシー

このような児童生徒の育成を目指します

一人一人の能力や特性を伸ばし、明るく、たくましく、自分らしく生き抜く力を育成します。

<小学部>

基本的な生活習慣を身に付け、自分なりに好きなことや興味のあることを見つけ、それぞれの方法で自分の思いを表現できる児童。また、好きな活動や体験的な活動を通して、友達を意識したり活動を楽しんだりして、学習に取り組むことができる児童。

<中学部>

いろいろな活動に興味・関心を広げ、友達や集団を意識してやりとりをしたり、基礎・基本的な知識を身に付けたりできる生徒。また、体力をつけて元気に登校でき、好きな活動や趣味を見つけ、自己選択ができる生徒。

<高等部>

集団の中で、他者と協調した態度や言動ができ、自分から働きかけたり仲間と協力したりしながら、社会に必要な学力や態度を身に付ける生徒。また、健康に必要な体力を主体的に身に付け、生活能力を高め、自分らしく社会参加できる生徒。

このように学びます

- 三つの教育課程を編成して、実態に基づいた適切な学習指導を実施しています。
- 個々の実態を丁寧に把握し、保護者とともに作成する個別の教育支援計画を基に、一人一人の能力や特性を伸ばす教育に取り組みます。
- 体験的な学習や、地域資源を活用した学習に取り組むことで、社会自立に向けた生きる力を育てます。